

2020 年度第1～2 四半期

業務達成状況報告書

(添付書類)

金沢大学

ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト
草の根技術協力事業(パートナー型)

今期の主な活動

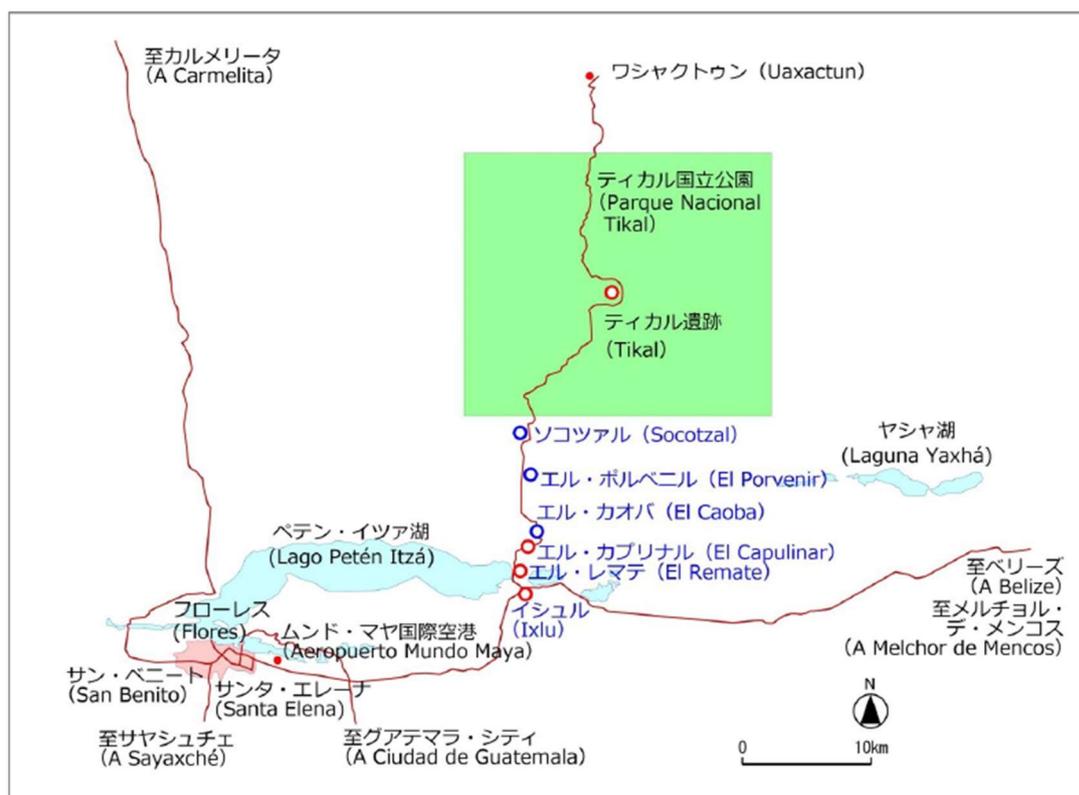
第一四半期・第二四半期

1. 新型コロナウイルス感染症に関する現地の情報共有
2. プロジェクト関係者とのウェブ会議

第二四半期

3. オンライン研修（テレワークについて）
4. オンライン研修（バイオセキュリティについて）

活動地域図



(グアテマラ共和国ペテン県フローレス市)

1. 新型コロナウイルス感染症に関する現地の情報共有

実施の背景

本プロジェクトは、ティカル国立公園の周辺コミュニティの住民の生活の質を向上させ、世界遺産を活用することについて意識向上を行うこと、さらに活動を長期的に持続して行うため、住民が政府・自治体等の関連機関と連携した活動を行うことを目的としている。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、プロジェクトメンバーが現地で活動を行うことが困難な状況に陥った。

そこで4月から9月にかけて、現地での新型コロナウイルス感染症の影響による実態を探るため、本プロジェクトの業務従事者（プロジェクトマネージャー補佐）であるグアテマラシティ在住のミゲル・エチェベリアと、業務補助員（プログラムコーディネータ）であるプロジェクト対象地域フローレス在住のイングリ・モラレス氏によって、現地状況の報告・共有が行われた。

成果、課題、今後の計画

ミゲル・エチェベリア氏がグアテマラ全体とグアテマラシティでの状況を報告し、イングリ・モラレス氏がプロジェクト対象地域のフローレス市での状況を報告することで、プロジェクトのメンバー全員が新型コロナウイルス感染症の流行による影響について把握することができた。プロジェクト対象地域での感染者の発生や、ティカル国立公園での講演の管理維持のための対策、また、市役所の対応等を確認した。

現在でも感染者の発生が続いており、現地へ国内のプロジェクトメンバーが渡航することが困難な以上、この活動を継続する必要がある。今後も新型コロナウイルス感染症に関する現地状況についての報告が共有される。

2. プロジェクト関係者とのウェブ会議

実施の背景

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、それぞれの地域の状況や所属する機関の情報を確認し、今後の活動について話し合いを行うためプロジェクト関係者による会議が行われた。

日時

2020年4月28日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年4月29日	10:00-11:00)
2020年5月27日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年5月28日	10:00-11:00)
2020年6月10日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年6月11日	10:00-11:00)
2020年6月23日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年6月24日	10:00-11:00)
2020年7月 8日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年7月 9日	10:00-11:00)
2020年7月22日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年7月23日	10:00-11:00)
2020年8月 5日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年8月 6日	10:00-11:00)
2020年8月19日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年8月20日	10:00-11:00)
2020年9月 3日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年9月 4日	10:00-11:00)
2020年9月16日	19:00-20:00	(日本時間)	2020年9月17日	10:00-11:00)

参加者

金沢大学ティカル草の根プロジェクト

プロジェクトマネージャー 中村誠一

プロジェクトマネージャー補佐 ミゲル・エチェベリア

プログラムコーディネーター イングリ・モラレス

現地業務補助員 佐藤陽一氏

国内調整員 緒方理彩

現地協力員 小川雅洋

金沢大学 学生 山崎珠代

2020年5月27日の会議のみ、上記の参加者に加え以下の参加者が加わった。

ティカル国立公園(PANAT) 生物学部門コンサルタント

クリステル・ピネダ・オレジャーナ

グアテマラ職業訓練校(INTECAP) 研修部門コンサルタント

カルロス・アビガイル・ゴンザレス

グアテマラ観光庁(INGUAT)

職員 フランシスコ・カノ

成果、課題、今後の計画

それぞれ居住している地域の、新型コロナウイルス感染症の影響の状況と、各所属機関の対策、またプロジェクトの活動への影響について確認を行うことができた。また、第三国研修の候補地であるホンジュラスの現状も報告され、状況の確認が行われている。

新型コロナウイルス感染症の影響が根強い現状から、7月からプロジェクトの活動を再開するために、段階的にオンラインでできる活動をふやしていく計画が考案された。また、人件費や海外諸費の計画等、経理上の変更についても議論された。7月より、オンラインでの研修の進捗状況の報告が行われ、オンライン研修の講義の内容や講師に関する協議が行われた。

また、現在のプロジェクト対象地域の状況や、JICA草の根技術協力プロジェクト活動について幅広く知ってもらうため、オブザーバーとして金沢大学の学生も参加した。

プロジェクトのメンバーの間で現地の状況や、オンライン研修について確認を行うため今後も月に2回実施される予定である。

3. リモート研修(テレワークについて)

実施の背景

新型コロナウイルスの影響から現地に人を派遣し住民を集める形式での活動が難しいことから、新しい活動の形を作るために現地で Web 会議形式での研修を企画することになった。

第 1 回目はパイロットプログラムと考えて、Web 会議形式でのリモート研修を現地で実施する上での問題点を見つけることも目的の一つとした。そこで、3 月まで業務従事者としてプロジェクトに参加していて現地の事情を熟知しているアレクサンデル・ウリサル氏に研修講師を依頼した。

研修の目的

「テレワークとは何かと使用されるツールについて」をテーマとして、Covid-19 への対策として各地で利用されるようになってきているテレワークの意味や方法、使われるツールについての研修を実施した。

研修は、Zoom のシステムを利用して実施された。

講師

アレクサンデル・ウリサル氏 (考古学者、パブリック考古学、プロジェクト前業務従事者)

研修参加者

参加登録：14 人、研修受講開始：12 人、研修修了者：4 人

研修内容

オリエンテーション 1 回、講義 10 回、発表 1 回の 12 回×1 時間で企画した。
発表 (プレゼンテーション) に関しては参加者の都合で 3 回に分けて行った。

ティカル国立公園への観光回廊における人材育成と組織化支援プロジェクト

日付	内容
7月6日	オリエンテーション
7月8日	テレワークの概要、歴史、長所と短所
7月13日	テレワークで使用されるツールについて(1) ディスカッション
7月15日	テレワークで使用されるツールについて(2) ディスカッション
7月17日	テレワークで使用されるツールについて(3) ディスカッション
7月20日	テレワークで使用されるツールについて(4) ディスカッション
7月22日	テレワークで使用されるツールについて(5) ディスカッション
7月24日	テレワークで使用されるツールについて(6) ディスカッション
7月27日	テレワークで使用されるツールについて(7) ディスカッション
7月29日	テレワークで使用されるツールについて(8) 参加者が行うツールに関してのプレゼンテーションの説明
7月31日	これまでの復讐と重要なポイントの説明
8月3日	プレゼンテーション(1)
8月5日	プレゼンテーション(2)
8月8日	プレゼンテーション(3)

実施途中での問題

参加登録をしたにもかかわらず、実際に研修に参加を続けた人は少なかった。

これまでにプロジェクトが現地で行ってきた集合研修においても、最初だけ参加する人が多くてすぐに半数程度になり最終的に修了まで到達するのは登録者の4分の1程度のことが多かったため、受講者が減るのは特に今回の研修に限ったことではない。しかしながら今回はビデオ会議システムを使っての初めての研修となっているため、これまでに考えられなかった理由で参加できないことも想定されることから、参加登録した人全員にアンケートを実施した。

アンケートの結果

アンケートを実施したところ、11名から回答を得ることができた。
その結果から、受講の障害に関して次のことが判明した。

(1) 受講者のインターネット接続環境

ほとんどの受講者が携帯電話で研修を受けている。インターネットは携帯電話の回線の使用が多い。携帯電話の回線はプロジェクトの対象コミュニティでは品質が悪いことが多い。

(2) 時間帯の問題

今回の研修では第1回の時に参加者の都合の良い時間を聞いて、それで17:00～18:00と設定した。しかし、就職している人はその時間帯ではまだ研修に参加できない結果となった。

(3) 参加できない理由

仕事をしているため、インターネットの品質が悪くて接続できない、研修を開始した後別の仕事が見つかったなど。

成果、課題への対応、今後の計画

新型コロナウイルスの蔓延という異常事態の中、集合しないで研修を実施するという試みを行い4名が修了まで到達したことは一定の成果と考えられ、また今後の研修実施に際しての知見を得ることもできた。

今回の研修で最大の課題は受講者のネット環境である。最初からつながらない、研修途中で接続が途切れて何度も再接続を余儀なくされるなどのケースが頻繁に見られた。受講者のネット環境の改善の問題はプロジェクトとして対応できる範囲を超えているため直接的な対応は取れないが、研修内容を録画しておいて参加できなかった人に後で見ってもらうという形での対応によって技術的に補うことは可能と考えられる。また、研修の日程についても改善してゆきたい。

研修の様子



Zoom による研修のスクリーンショット(1)



Zoom による研修のスクリーンショット(2)



Zoom による研修のスクリーンショット(3)

4. オンライン研修(バイオセキュリティについて)

実施の背景

新型コロナウイルス感染症のパンデミックはプロジェクト実施対象地域のコミュニティにも影響を与えており、コミュニティに多い中小企業においても営業を行うためにはバイオセキュリティの知識とプロトコルへの対応が要求される。この分野での研修の実施を企画して講師を探していたときに、2019年度の本邦研修に参加した INTECAP（グアテマラ職業訓練校）職員に相談したところ、ウェビナー形式での研修を実施できるという話になり、連携して研修を実施することになった。

研修の期間と方法

研修は、9月14日～、1回2時間×10回実施。(実施日：9月14日、16日、18日、21日、23日、25日、28日、30日、以降は10月に継続)

INTECAPの用意したMicrosoft Teamのシステムを利用して実施されている。

講師

ロウルデス・マリア・ラミレス・オバジェ (Lourdes María Ramírez Ovalle) 氏
(化学工学学士、ISO9001品質管理プロジェクトアシスタント)

研修参加者

参加登録者：20人

研修内容

テーマ1：バイオセキュリティ

- 一般的な原則
- 普遍性
- 障壁
- 生物感染性廃棄物の管理

テーマ2：プロトコル

- 自宅から職場への移動、またはその逆の移動のプロトコル
- 作業領域に入るためのプロトコル

- 従事者の清潔維持と衛生
- 個人の衛生管理の頻度
- 個人用防護具（PPE: personal protective equipment）の正しい使用法、クリーニングと交換（マスク、グラスなど）

テーマ3：プロトコルの作成に関するガイドライン

- カスタマーサービスガイド/プロトコル（カフェテリア、ショップ、マーケットなど）
- プロバイダーサービスガイド/プロトコル
- サプライチェーンガイド/プロトコル
- 清掃と衛生管理の頻度ガイド/プロトコル

テーマ4：安全な職場復帰

- 新しい通常への復帰のフェーズ
- 経済再活性化の要件
- 新しい通常について
- 事業運営の継続性

成果、課題への対応、今後の計画

バイオセキュリティに関する研修は10月まで継続される。その他のオンライン研修についても、今期に実施されたオンライン研修の反省点を踏まえ計画・実施される予定である。